

令和 3 年 8 月 23 日現在

機関番号：35302
 研究種目：基盤研究(C) (一般)
 研究期間：2018～2020
 課題番号：18K00400
 研究課題名(和文) コンピュータによる『カンタベリー物語』諸写本・諸刊本と16世紀印刷本の計量的比較

 研究課題名(英文) A Computer-assisted Comparison of the Manuscripts, Editions and the 16th Century Printed Texts of The Canterbury Tales:

 研究代表者
 地村 彰之 (Jimura, Akiyuki)

 岡山理科大学・教育学部・教授

 研究者番号：00131409
 交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：『カンタベリー物語』のHengwrt写本、Ellesmere写本、Blake版、Benson版、Caxton版(初版)、Caxton版(第2版)、Pynson版、Wynkyn de Worde版、Thynne版を縦軸に並べて、一目で共通点と相違点を把握できるデータを作成してきた。本研究では、16世紀初頭の印刷本Thynne版(1532)のデータ(Fragment 1)に基づいたテキスト比較研究を国際学会において発表した。今日までのテキストの伝達と継承の問題について考察する研究の流れが形成できた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

今日まで新チョーサー協会国際大会に参加し、2008年連合王国・スウォンジー大学での16回大会から2018年カナダ・トロント大学での21回大会まで継続して研究発表をした。その成果の意義・波及効果は以下のとおりである。テキストの校合という方法とそれに基づく統計的実証データを提示した報告は高い評価を得、本研究が国際的にも最先端をいくものであることが確認できた。Peter Robinson 博士などチョーサーの写本研究の専門家報告と専門家との意見交換は本研究の進展に大いに参考になった。これからも研究成果を新たに国際的な舞台で発表することによって、学術的・社会的意義を敷衍することができる。

研究成果の概要(英文)：This project has explored some of the systematic differences between the two manuscripts (the Hengwrt MS and the Ellesmere MS) and the edited (Blake's edition and Benson's edition) and printed texts (Caxton's 1st edition (CX1), Caxton's 2nd edition (Cx2), Pynson's text (1492), Wynkyn de Worde's text(1498), and Thynne's text (1532) by performing quantitative analysis, with special attention to Fragment 1 of The Canterbury Tales.

研究分野：中世英語英文学

キーワード：チョーサー 『カンタベリー物語』 コンピュータ 写本 印刷本 計量的比較

1. 研究開始当初の背景

今まで チョーサーの *The Canterbury Tales* 諸刊本の中で、F. N. Robinson 版テキストと N. F. Blake 版テキストについて各行ごとの比較を試み、A. Jimura, Y. Nakao and M. Matsuo, eds. *A Comprehensive List of Textual Comparison between Blake's and Robinson's Editions of The Canterbury Tales* (Okayama: University Education Press, 1995)を出版した。これは行単位での単語・語句の異同を網羅的に列挙した基本的データとして、国内外で高い評価を受けた。

このことは、チョーサーの他の作品についても同じ様な基礎的作業の必要性を示すものであり、チョーサーの代表作である *Troilus and Criseyde* についてもテキスト比較研究を試みた。その成果は A. Jimura, Y. Nakao and M. Matsuo, eds. *A Comprehensive Textual Comparison of Troilus and Criseyde* (Okayama: University Education Press, 1999)に発表した。次に、*Troilus and Criseyde* 以前に書かれた夢物語詩 *The Book of the Duchess*, *The House of Fame*, *The Parliament of Fowls* の諸刊本のテキスト比較研究を行い、その成果は A. Jimura, Y. Nakao and M. Matsuo, eds. *A Comprehensive Textual Comparison of Chaucer's Dream Poetry* (Okayama: University Education Press, 2002)。また、*The Legend of Good Women* 諸刊本(2003)、*The Romaunt of the Rose* 諸刊本(2007)、*Boece* 諸刊本のテキスト比較を行った。初期作品群のテキスト、*Troilus and Criseyde*, *The Canterbury Tales*, *The Legend of Good Women* との言語的連続性を見だし、ひいてはチョーサー自身の言語再建への糸口を見つけることを目的とした。

さらに、『カンタベリー物語』Hengwrt 写本・Ellesmere 写本や Gg.4.27 写本と代表的な刊本とのテキスト比較を試みることによって、チョーサーの言語を総合的に見ることを目的にしてきた。以上、本研究でテキストを問題にしてきたのは、地村(2004b、2005b・d、2006b、2007a・c、2008b、2009a、2010c・d、2011a・c)の論文で指摘したように、例えば、チョーサーの語彙研究において「嘗めるように読む」テキストの信頼性が重要であるからである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、ジェフリー・チョーサーの写本と刊本の言語について、コンピュータを利用し、その英語の語彙・統語・文体を総合的に研究し、チョーサーの textual criticism に貢献することにある。

本研究では、キャクストン版『カンタベリー物語』(c 1476; c1482²)以後出版されたピンソン版(1492)、ドウ・ウード版(1498)と他の写本やテキストとの間に生じた異同の問題を取り上げる。Hengwrt (ヘングウルト)写本とEllesmere (エルズミア)写本は『カンタベリー物語』のみの代表的写本であるが、ピンソン版(1492)、ドウ・ウード版(1498)、シン版(1532)は、英語の標準化の過程に大きく関わるだけでなく、初期の印刷本として重要なものである。これは、地村(2005)で指摘したように、15世紀後期に作成された印刷本であり、写本を写す時代には出来なかった英語の標準化の過程に大きく関わっただけでなく、16世紀以後の諸刊本に影響を与えたものである。本研究は、今日までのテキストの伝達と継承の問題を考えるための基盤的研究である。

3. 研究の方法

ジェフリー・チョーサーの写本と刊本の言語について、コンピュータを利用し、その英語の

語彙・統語・文体を総合的に研究し、チョーサーの textual criticism に貢献するために、『カンタベリー物語』のシン版 (1532) のデータ入力を行い、『カンタベリー物語』Hengwrt (ヘングウルト) 写本と Ellesmere (エルズミア) 写本および Blake 版・Benson 版やキャクストン版、ピンソン版 (1492)、ドウ・ウォード版 (1498) などとその共通点・相違点について対照的に整理する。この整理のためにパソコンを利用し、具体的な研究の手順は以下の通りである。

シン版 (1532) 『カンタベリー物語』のデータ入力を行い、『カンタベリー物語』Hengwrt (ヘングウルト) 写本と Ellesmere (エルズミア) 写本および Blake 版・Benson 版、ピンソン版 (1492)、ドウ・ウォード版 (1498) などとその共通点・相違点について対照的に整理するために、パソコンを利用し下記の手順で研究を進めた。

(1) 『カンタベリー物語』のシン版 (1532)、ピンソン版 (1492)、ドウ・ウォード版 (1498)、キャクストン版 (c 1476; c1482²)、Hengwrt (ヘングウルト) 写本、Ellesmere (エルズミア) 写本という7つのテキスト・データを比較分析した。

(2) (1)の Hengwrt (ヘングウルト) 写本、Ellesmere (エルズミア) 写本という写本間の比較データに、『カンタベリー物語』の Blake 版 (*The Canterbury Tales* (London: Edward Arnold, 1980)) と Benson 版 (*The Riverside Chaucer* (Boston: Houghton Mifflin, 1987)) の2つの刊本テキストを加えて、データの比較分析をした。

4. 研究成果

作成する冊子を *A Comprehensive List of Textual Comparison between Blake's and Robinson's Editions of The Canterbury Tales* (1995), *A Comprehensive Textual Comparison of Troilus and Criseyde* (1999), *A Comprehensive Textual Comparison of Chaucer's Dream Poetry* (2002), "The General Prologue" to *The Canterbury Tales: A Comprehensive Collation of the Two Manuscripts (Hengwrt and Ellesmere) and the Two Editions* (2008) と較べながら、共通するテキストの特徴を見出す作業を行った。これは、最終的に写字生の筆跡を見るだけでなく、写本を印刷本として継承していく過程の一端を探ることになり、作者チョーサー自身の英語が今日まで受け継がれてきた英語史的な流れを把握する最短の方法になるかも知れない。

本研究では、『カンタベリー物語』のシン版 (1532)、ピンソン版 (1492)、ドウ・ウォード版 (1498) とキャクストン版 [初版 (c 1476) (Cx1) と第2版 (c1482) (Cx2)] と他の写本やテキストとの間に生じた異同の問題を取り上げている。Hengwrt (ヘングウルト) 写本と Ellesmere (エルズミア) 写本は『カンタベリー物語』のみの代表的写本であるが、キャクストン版『カンタベリー物語』は、最初の刊本として重要なものである。これは、地村(2005)で指摘したように、15世紀後期に作成された印刷本であり、写本を写す時代には出来なかった英語の標準化の過程に大きく関わっただけでなく、キャクストン以後の諸刊本に影響を与えたものである。本研究は、今日までのテキストの伝達と継承の問題を考えるための基盤的研究である。

特に、今回は15世紀後期に出版されたキャクストン版 [初版 (Cx1) と第2版 (Cx2)] のデータ入力をすすめた。『カンタベリー物語』の代表的写本と初期の印刷本と今日用いられている刊本とが容易に比較できるように、パソコン上でのテキスト処理をする方法の第一段階に達したといえる。つまり、Hengwrt 写本、Ellesmere 写本、Blake 版、Benson 版、キャクストン版 (初版 Cx1)、キャクストン版 (第2版 Cx2)、ピンソン版 (1492)、ドウ・ウォード版 (1498)、シン版 (1532) を縦軸に並べて一目で共通点と相違点が把握できるデータが散文を除いて完成した。『カンタベリー物語』「総序の歌」冒頭の数行を研究成果の一部としてここで引用する。

<p>1 HG: {6W}han that Auerriff w__^t his shoures soote. EL: {6W}Han that A.nriff with hise shoures soote. BL: __W.han that Auerrill with his shoures soote. BN: __W.han that Aprill with his shoures soote. X1: __W.Han that Aprill with his shouris so.te. X2: __W.Han that A.nrill wuth hys shouris so.te. PY: __W.han that Aprille with his showres so.te. WY: __W.han __ A.nrill wuth his shoures so.te. TH: __W.Hanne that A.nryll with his shoures so.te.</p>	<p>4 HG: Of which v^{tu} # engendred is the flour. EL: Of which v^{tu} / engendred is the flour. BL: Of which vertu engendred is the flour. BN: Of which vertu engendred is the flour. X1: Of whiche vertu engendrid is the flour. X2: Of whuche vertue engendrud is the flour. PY: Of whiche vertue engendred is the flour. WY: Of whuche vertue engendrud is the flour. TH: Of whiche vertue / engendred is the flour.</p>
<p>2 HG: The droghte of Marc:E/ hath _pced to the roote. EL: The droghte of Marc:E/ hath perced to the roote. BL: The droghte of Marc:h hath perced to the roote. BN: The droghte of Marc:h hath perced to the roote. X1: And the droghte of marche hath _percid t.e.ro.te. X2: The droghte of marche hath _percid the.ro.te. PY: The droghte of marche hath _perced the ro.te. WY: __:Edrou:ite of Marche ha.d _percid _ ro.te. TH: The droghte of Marche ha.d _percid the ro.te.</p>	<p>5 HG: Than zephirus eek^r # w^t his sweete breath. EL: Than Zephirus eek / w^t his sweete breet... BL: Than Zephirus eek with his sweete breath. BN: Than Zephirus eek with his sweete breath. X1: Thanne zepherus e.ke with his s_ote breath. X2: Thanne Zepherus e.ke wuth hys s_ote breath. PY: Thanne zepharus e.ke with his s_ote brea.the. WY: Thanne Zepherus also wuth hys s_ote brea.th. TH: Than zephirus e.ke with his s_ote brea.th.</p>
<p>3 HG: And bathed euery veyne # in swich lycour. EL: And bathed euery veyne / in swich licour. BL: And bathed euery veyne __in swich lycour. BN: And bathed every veyne __in swich licour. X1: And ba.did...euery veyne __in s_uche licour. X2: And bathud...euery veyne __in s_uche lycour. PY: And bathed euery veyne __in s_uche licoure. WY: And bathed...ueri vey...:E in s_uche lycour. TH: And bathed euery veyne __in s_uche lycoure.</p>	

5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計8件)

- ・中尾佳行・池上忠弘. 2020. 「『カンタベリ物語』(The Canterbury Tales)の写本と初期刊本」福山大学『大学教育論叢』第6号、pp. 99-120.
- ・地村彰之「The House of Fame と「商人の話」における五感の表現—真実と嘘をめぐって—」『岡山理科大学紀要』第56号(2020)B、1-11. <https://ous.repo.nii.ac.jp/>
- ・中尾佳行. 2021. 「チヨースーの話法の伝達動詞を考える—『トロイラスとクリセイデ』の場合」『大学教育論叢』第7号、福山大学大学教育センター、pp. 119- 138.
- ・Ohno, Hideshi. “A Synchronic Analysis of Transition from the Impersonal to Personal Construction.’ *The Rising Generation*, 153/2 (2007): 110-113.” *eJGN (John Gower Newsletter)*, Vol. 39, No. 2. October 2020. p. 38.
- ・佐藤健一: 時空間データに対するバランス型成長曲線モデルの適用, 応用統計学, 49(2),

71-84, 2020. <https://doi.org/10.5023/jappstat.49.71>

・佐藤健一: 位置情報を用いた変化係数にもとづく回帰分析手法の実装について, 素粒子論研究, 29-2,54-57, 2019.

・“The Semantics of Chaucer’s speech/thought presentation in *Troilus and Criseyde*: The Emergence of conceptual blending.” Hideshi Ohno, Kazuho Mizuno, and Osamu Imahayashi, eds. *The Pleasure of English Language and Literature: A Festschrift for Akiyuki Jimura*. Hiroshima: Keisuisha, 2018, 241-60.

・Hideshi Ohno: “On the use of *lief* in Chaucer.” *The Pleasure of English Language and Literature*. (Hideshi Ohno, Kazuho Mizuno, & Osamu Imahayashi, eds. Keisuisha): 261-75, 2018.

[学会発表](計3件)

・2019年8月8日第60回夏季広島英語研究会(広島大学霞キャンパス広仁会館)における Round Talk において、Masahiko Agari, Akira Wada, Tokuji Shimogasa, Ken Nakagawa, Yoshiyuki Nakao and Akiyuki Jimura: “Professor Michio Masui, CBE: His Research and Education in Hiroshima University” の発表があった。

・日本中世英語英文学会第35回全国大会(2019年11月30日、東京未来大学)企画シンポジウム (Editing and the Interpretation of Texts: Past, Present and Future Practices) において、大野英志 "Transcribing and Printing as Editorial Interpretations: A Comparative Case Study on *The Canterbury Tales*" を発表した。中尾佳行と地村彰之も討論登壇者として参加した。

・Hideshi Ohno: Variations in Use of *listen* among the Earliest Manuscripts and Printed Editions of *The Canterbury Tales*. International Medieval Congress Leeds 2019 (於 University of Leeds), 2019.

[図書](計4件)

・地村彰之・笹本長敬訳、ジェフリー・チョーサー作『善女列伝・短詩集』 溪水社、2020年9月10日。276 pp.

・片見彰夫他編、大野英志、寺澤盾他著:『英語教師のための英語史』(開拓社)2018. pp. 83-105.

・Hideshi Ohno, Kazuho Mizuno, & Osamu Imahayashi, eds.: *The Pleasure of English Language and Literature*. (Keisuisha): xiv+400 pages, 2018.

・『チョーサーの言語と認知—「トパス卿」の言語とスキーマの多次元構造—』広島: 溪水社、2018, xiii + 230 pp.

[その他]

ホームページ等 <https://home.hiroshima-u.ac.jp/ajimura/>

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名: 中尾佳行

ローマ字氏名: NAKAO, Yoshiyuki

所属研究機関名: 福山大学

部局名: 大学教育センター

職名: 教授

研究者番号(8桁): 10136153

研究分担者氏名: 佐藤健一

ローマ字氏名: SATOH, Kenichi

所属研究機関名: 滋賀大学

部局名: データサイエンス教育センター

職名: 教授

研究者番号(8桁): 30284219

研究分担者氏名: 川野徳幸

ローマ字氏名: KAWANO, Noriyuki

所属研究機関名: 広島大学

部局名: 平和センター

職名: 教授

研究者番号(8桁): 30304463

研究分担者氏名: 大野英志

ローマ字氏名: OHNO, Hideshi

所属研究機関名: 広島大学

部局名: 人間社会科学研究科(文)

職名: 教授

研究者番号(8桁): 80299271

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 地村彰之・笹本長敬	4. 巻 55
2. 論文標題 ジェフリー・チョーサー作『短詩集』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 岡山理科大学紀要	6. 最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中尾佳行・池上忠弘	4. 巻 6
2. 論文標題 『カンタベリー物語』(The Canterbury Tales)の写本と初期刊本	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 大学教育論叢	6. 最初と最後の頁 99-120
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hideshi Ohno, Akiyuki Jimura, Yoshiyuki Nakao, Kenichi Satoh and Noriyuki Kawano	4. 巻 62
2. 論文標題 Textual Variations and Readings among the Manuscripts and Editions of The Canterbury Tales: With Special Reference to The Knight's Tale	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Hiroshima Studies in English Language and Literature	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Akiyuki Jimura	4. 巻 33
2. 論文標題 Chaucer's House Revisited	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Studies in Medieval English Language and Literature	6. 最初と最後の頁 1-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 5件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Masahiko Agari, Akira Wada, Tokuji Shimogasa, Ken Nakagawa, Yoshiyuki Nakao and Akiyuki Jimura
2. 発表標題 Professor Michio Masui, CBE: His Research and Education in Hiroshima University
3. 学会等名 第60回夏季広島英語研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hideshi Ohno
2. 発表標題 Transcribing and Printing as Editorial Interpretations: A Comparative Case Study on The Canterbury Tales
3. 学会等名 日本中世英語英文学会第35回全国大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hideshi Ohno
2. 発表標題 Variations in Use of listen among the Earliest Manuscripts and Printed Editions of The Canterbury Tales
3. 学会等名 International Medieval Congress Leeds 2019（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西村秀夫、濱口恵子、野地薫、中尾佳行
2. 発表標題 ワークショップ「チョーサーを読む」
3. 学会等名 日本中世英語英文学会 第35 回 西支部例会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Akiyuki Jimura
2. 発表標題 A New Approach to the Manuscripts and Editions of The Canterbury Tales: With Special Reference to Thynne 's Edition
3. 学会等名 The 21st Congress of The New Chaucer Society (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 地村彰之、笹本長敬	4. 発行年 2020年
2. 出版社 溪水社	5. 総ページ数 276
3. 書名 ジェフリー・チョーサー作善女列伝・短詩集	

1. 著者名 Hideshi Ohno, Kazuho Mizuno, Osamu Imahayashi	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Keisuishsha	5. 総ページ数 413
3. 書名 The Pleasure of English Language and Literature: A Festschrift for Akiyuki Jimura	

〔産業財産権〕

〔その他〕

ジェフリー・チョーサー作『短詩集』 https://ous.repo.nii.ac.jp/
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	中尾 佳行 (Nakao Yoshiyuki) (10136153)	福山大学・大学教育センター・教授 (35409)	
研究分担者	佐藤 健一 (Sato Kenichi) (30284219)	滋賀大学・データサイエンス教育研究センター・教授 (14201)	
研究分担者	川野 徳幸 (Kawano Noriyuki) (30304463)	広島大学・平和センター・教授 (15401)	
研究分担者	大野 英志 (Ohno Hideshi) (80299271)	広島大学・人間社会科学研究科(文)・教授 (15401)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関